

第15回 10万人会議

「治す医療から支える医療へ」

6月15日、10万人会議は180人の参加でした。テーマ①高齢化のすすむ社会とまちづくりについて考え交流する。②新規事業と南大高駅前の土地活用の進捗を確認する。

日本医科大学の長谷川敏彦教授からは「日本は世界で最も先行する人類未踏の超高齢社会になる中で、『単一疾患を治す



医療』から地域での生活を『支える医療』への転換、医療と福祉の目的が一緒になり統合された『ケアサイクル』という考えが必要」「日本はそのシステムを開発し、世界へ発信する使命を負っている。」「大高にその答えがあるのではないかと、熱っぽく語って下さいました。

参加者からは「我々も少なからず取り組んでいる」「自分達の進む道に確信を持って良いとお話と感じた」など感想が寄せられ「ケアサイクル」という考え方と南医療生協の実践が繋がっていることを確かめました。

後半は新規事業と南大高駅前の土地活用について報告がありました。

最後に有松診療所の山本所長より「住民参加型で、面的にすすめる新しい医療、まちづくりは、南医療生協の出番。日本がもつ思いやりさえあう社会のあり方の発信は、緊迫したアジアの中で大きな意味がある。」とのまとめがありました。

次回10万人会議のご案内

- *日時：7月20日(土) 14:00~16:30
- *場所：コープ健診フィットネスセンター 3階
- *テーマ：「地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションの役割」